

恋の詩

karinomaki

はじめに

恋は、美しくやわらかく、しかし、しっかりした強いものだと思っています。恋を表現するために、詩をいくつかつくってみました。

ショパン

泣きながらピアノをひいたとき

あなたは どうして泣いているのかきかず、
なぐさめてもくれなかったけれど、
じっと目を閉じて私のピアノをきいていた。

ショパンのコンサートにいったとき、

「君がひいていたのもショパンだったね」と言ってくれて、
私は、あのときあなたが私の涙を心にきざんでくれていたのを知った。

あなたへの愛はショパンのようだ

哀しいのに、夢見るような気持ち

愛と芸術は似ている

私は強く、明るくなって、あなたを照らしたい。

でも、このつらい世界で、それがむずかしいことを知っている。

でも、そのむずかしさが、芸術をつくるのだとわかったとき、

私は、あなたの哀しみのなかの、安らぎになれる気がした

リスト

少女よ・・・君はまだ子供だ
でも、そう思っていたのに、ある日突然君を異性だと思った
君の奏でるピアノが、
まるで誰かに深くあこがれている恋の歌に聞こえた
きいていたぼくは、まるで君に求愛されているような気持ちになった
窓の外を見ると、雪が降り出し、新しい季節の到来を告げていた
君が初めてひいた恋の歌は、
リストの「愛の夢」
君は本当は、何を思ってこの曲をひいたのだろうか

雪とダイヤモンド

雪の結晶ほど、白くてきれいなものはないのに、どうして手でつかめないのだろう
美しいものは、つかむことができないのだろうか。

でも、あなたがつくった本は、

雪を積み重ねてダイヤモンドにしてつかむような、この世の奇跡。

あなたの手は、とても温かいのに、

温かいからこそ、雪をつかんで形にできたのですね。

抽象的なもの、概念を形にして、手につかむという魔法を、あなたは教えてくれた。

私は・・・本物のダイヤモンドではなく、

雪がほしい。

雪を形にして、手の中につかみたい。

それは、恋のように、切ない、私の夢だった。

あなたは、本当に美しいものは、ダイヤモンドではなく、

形のないもので、

雪のように、つかめないものだを教えてくれた。

あなたのくれた、心の宝物をしっかりとつかんで、

私は今日も紙に向かおう。

私だけの雪をいつかつかみたいから

恋

紙に向かっていて、いつもあなたに向けて書いている
心がみだれると、あなたにうけとめてほしい
そして、生きる目的は、あなたの最大の理解者になりたいという思い
その思いは確かに私の存在をくつきりさせてくれるのに・・・
どうして毎日がこんなに切ないのだろう
こんなに日々は確かな宝物なのに。
私は「築く」ということを、あなたに教えられたのに・・・。
どんなに遠くにいても、私はあなたにもらった心の宝物だけで生きていける・・・
そんな、私のなけなしの強さが
ふとした瞬間に、痛いほどの切なさでうめつくされ、
私は恋のつらさを思い知るのだ
たとえあなたが、私をずっと愛してると言ってくれても
恋は私の身を切っていくのだろう。
それなのに、人は恋をすることを、人生の最も美しい場所においている
恋が哀しいのは、それが本物だからなのだろう
哀しい映画を思い出し、泣きながら恋を抱きしめて眠った夜も明け、
私は恋をわきにおいて、日常にもどる
毎日を大事に生き、大切なものをいっぱいつくって、いつかあなたに打ち明けよう。
あなたが大好きだと。
私は確かに、本当の恋をして、この世界を生きている。

流れ星

今夜の月を あなたにも見てほしい
思いはとどかなくても 空だけは心をつないでくれる気がする
あなたをさがしながら歩く夜道
いないとわかっているのに さがしてしまう
そのとき 流れ星がこぼれて
願い事をするどころか
この星とともに 恋がこぼれてしまうのを恐れた。
会いたい
流れた星は あなたのところにいった気がした

夜の空港

夜の空港に 星がたくさん出ていた
あなたが乗った飛行機が 星の海の中へ入っていく
もっこの気持ちを大切にすればよかった
あなたとの時間を愛せばよかった
私は自分のことばかりだったと 今、気がついてしまうのだ
でも、私が未熟で 後悔ばかりなのは、
自分と しっかり向き合っていなかったため。
私は気高く 一人で地上を歩く
そう思って 私は生きていこう
でも 夜になると、星空の中に消えていった飛行機を思う
心だけでいいから、あの星になって

気高い夜空で あなたを包みたいと 思うのだ